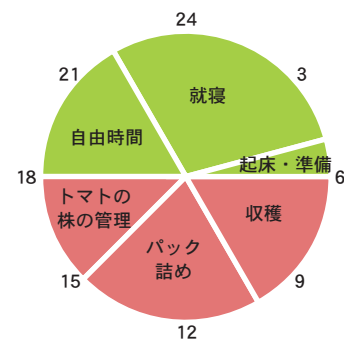


お客さんの「おいしい！」が 何よりの励み。

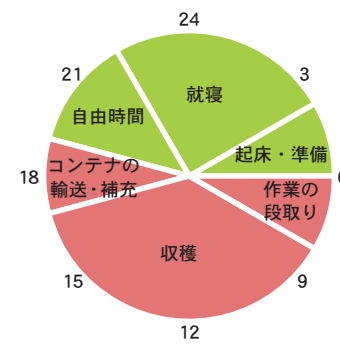
たてやま はなえ
舘山 華江さん (27)
 平成 25 年就農（青女子）
 ミニトマト農家・加工品販売

▼収穫期（7月～11月ごろ）
 の1日のスケジュール。収穫期
 は毎日休みなく働くが、冬期は
 比較的ゆったり過ごせる。



▲ミニトマト「千果(ちか)」は、まん丸でつやのある赤色。味が濃くて食べやすい。

▼収穫期（9月～11月ごろ）
 の1日のスケジュール。収穫を
 効率よく進めるため、作業前の
 段取りは綿密に行う。



▲佐久間さん一家。リンゴの収穫時期は家族みんなで手伝う。

リンゴに、人に、 ひたむきに向き合う。

さくま やすゆき
佐久間 康幸さん (39)
 平成 15 年就農（五所）
 リンゴ農家

家族で農業に挑戦

農業を始めたのは、ただ「楽しそう」という憧れからでした。会社勤めではなく、自分で自由にできる仕事がしたいという思いもあって。青森県営農大学校を卒業した後、2年間農家研修に参加して、念願のハウスを建てました。

家族に農業がしたいと相談した時、父がノリノリで「いいじゃない！俺もやるよ」と一緒に農業を始めることに(笑)。私が苦手なトラクターの運転などもしてくれて、とても助かっています。母は最初「できるわけない」と反対していましたが、今では一緒に手伝ってくれています。そんな家族の協力があって、農業が続けられていると感じています。

割れた実を輝かせたくて…

栽培している「千果(ちか)」というトマトは、味はいいけどすごく割れやすい品種。栽培を始めて2～3年は割れた実を全部捨てていて、それが悲しくて悲しくて…。

そこで4年目になる昨年、最初は利益は出なくてもいいつもりで、割れた実を使ったジュースを開発したんです。県のABC(あおもり食品ビジネスチャレンジ)相談会に参加し、6次産業化の補助も利用して設備を揃え、商品化できました。

加工・販売まで手がけるのは準備など大変な面もあって、両親にも負担をかけていますが、お客さんの「おいしい」の言葉に励まされて、家族全員で頑張っています。

女性に向いている？

トマトの成長を見守ったり、黙々と作業したり、女性はけっこう好きな仕事ではないかと思います。

収穫時期が終われば余裕が出るので、友人と出かけたり、自分の時間も楽しんでいます。

よりおいしく より多く

トマトを選んだ理由は、最初にスーパーで一番売れるのがトマトだと聞いたから(笑)。でもいざやってみたら、私が育てたトマトをたくさんの人が好きだと言ってくれて、今ではそれが一番のやりがいです。お客さんによりおいしいトマトをより多くお届けできるよう、努力していきたいです。

▶千果 100% ジュース「トマトのお姫様」はすっきりした甘さの逸品。リピーターになる人も。



ひろさき農業サポート情報②

農産物の6次産業化を支援する
**地元農産物加工
 支援事業費補助金**

高い付加価値を生み出す6次産業化を図るため、農産加工品の商品開発や販路開拓に要する経費を補助しています。

■問い合わせ先 農業政策課農産係 (☎ 40・7102)

妻との出会いから農業の道へ

私は神奈川県横浜市の出身なのですが、弘前市でリンゴ栽培を始める以前は、野球一本の生活を送っていました。

青森県内の大学に進学し在学中に妻と知り合ったことから、相馬地区にある妻の実家のリンゴ作業をよく手伝うようになりました。都会では味わうことのできない経験に、素晴らしい仕事だと感じました。

大学卒業後、岩手での社会人野球を経て、かねてから野球の次にと心に決めていた「農業」という道を選択することに。住まいを弘前に移し、妻の実家のリンゴ農家を継ぐ形で、リンゴを育てるという仕事に就きました。

せん定技術の魅力

リンゴのせん定は、木に栄養を行き渡らせ、おいしいリンゴをたわわに実らせるためのとても重要な作業。枝の切り方によっては、木が死んでしまうこともあります。

しかも、リンゴの木は一本一本性質が違うため、同じ切り方が通用しないことも。その畑、その木の状況を読み取り、判断しなくてはいけないので、とても難しい作業なんです。

せん定は師匠に弟子入りして教えてもらいましたが、師匠ですらまだ探求を続けているぐらい、実に奥深い分野です。この先も一生をかけてせん定の技術を習得していきたいと思っています。

家族や地域との信頼

リンゴの作業はたくさんの人手が必要。我が家では家族と手伝いの人と合わせて7人で作業していて、家族の協力は欠かせません。

横浜に住む両親も忙しい時期には手伝いに来てくれて、今の生活を理解し、協力してくれることに感謝しています。

私がここで農業ができるのは、地域の人たちの優しさがあってのことだと、日々感じています。相馬地区は、日頃から近所の人たちと密に関わる機会が多く、お互い自然に助け合うことができる地域です。こういう相馬地区の素晴らしいところを、今度は自分が後世に引き継いでいきたいと考えています。

農作業を手伝ってみませんか。

詳しくは **あおもりの農作業の上手い人たち**

検索

県では、農業の労働力不足を踏まえ、農作業を手伝ってくれる「あおもりの農作業の上手い人たち」を募集しています。詳しくは、県内5つの農協等が農業の求人・求職をあっせんする無料サイト「あおもりの農作業の上手い人たち」をご覧ください。農作業未経験者が農作業を学べる「青天農場」も県内30か所に設置し、「あおもりの農作業の上手い人たち」の育成も行っています。
 ■問い合わせ先 青森県構造政策課 (☎ 青森 017・734・9463)



QRコードから
アクセス▲